

13	学校名 目黒区立中目黒小学校（外 16校）	R1～R5
----	-----------------------	-------

令和5年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

児童の学びの質と生活の質の向上を図るため、学校教育法施行規則第51条の規定によらず、1単位時間を40分（40分×1015コマ）とし、創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。

2 研究開発の概要

全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ることができるよう、標準授業時数にプラスすることなく「時間」という限られた資源を効果的に活用する。

- ①学校教育法施行規則第51条別表第1によらず1単位時間を40分としても、創意工夫ある教育課程の編成及び指導内容の精選・重点化を図ることで学力は維持、向上できることを示し、学校の実態により1単位時間40分（40分×1015コマ）を選択して教育課程を編成することが可能であることを提言する。
- ②40分授業にしたことによる残りの5分間をまとめて生み出した時間とし、個に応じた指導や協働的な活動等の特色ある教育活動、教員のための裁量の時間等に活用する。このことにより、学校独自の創意工夫ある教育課程の編成及び教員の資質向上と働き方改革の一層の推進が可能であることを示す。
- ③次期学習指導要領における1単位時間40分の実施に向けて、全国のどの学校においても教育課程を編成できるよう導入モデルを示す。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

上記研究の目的を果たすため、研究仮説を以下のように設定した。

- ①学習の集中と弛緩による「40分授業午前5時間制」の実施、指導内容の精選と重点化、指導計画の見直し、1単位時間の指導の改善と充実、生み出した時間を生かした学習者主体の創意工夫ある教育活動を行えば、学習指導要領の着実な実施と児童の学びや生活の質の向上が図られるであろう。
- ②「40分授業午前5時間制」で生み出した時間の一部を教員のための時間（会議、研修、学年会や、教材研究・校務分掌等の一人一人の教員に裁量のある時間）として活用すれば、教員の資質向上と働き方改革の推進が図られるだろう。

（2）教育課程の特例

- ・学校教育法施行規則第51条別表第1で1単位時間45分（45分×1015コマ）を40分（40分×1015コマ）とし、別紙2の「教育課程表」の通り実施する。

4 研究内容

（1）教育課程の内容

「40分授業午前5時間制」で「生み出した時間¹」を生かした学校独自の創意工夫ある教育課程を編成している。

¹ 「生み出した時間」…①1単位時間を45分から40分にしたことにより生み出した時間と②週時程等を工夫したことにより生み出した時間がある。（令和5年度研究開発自己評価書 p. 1 参照）

【「生み出した時間」を活用した各学校の主な取組】

個別最適な学びの充実	学習の素地を高める
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心のあることを個人で探究する活動（中目黒小・駒場小） ・理科や生活科の学習の児童の振り返りから生み出された問題を追究する活動（宮前小） ・デジタルドリル等を活用し、自分の学習状況に適した学習（烏森小・向原小・月光原小等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の充実を図る取組（下目黒小） ・表現力や対話力を育成する活動（不動小・上目黒小） ・「コグニッショントレーニング・コーディネーショントレーニング」を取り入れた取組（中根小） ・児童が体を動かす時間と場所を十分に確保した活動（原町小）
学校や地域の特徴を生かす	子供たちと向き合う
<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由特別支援学級の児童や他学年児童との交流活動（油面小） ・地域貢献活動等、学習力と社会力の向上を図る「サービス・ラーニング」を取り入れた取組（田道小） 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする児童の実態把握と支援方法を関係教員間で共通する取組（鷹番小） ・放課後の個別指導、児童との対話の時間（緑ヶ丘小） ・OJT、教材研究、授業準備（各校）

例えば、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に重点を置いて取り組んでいる目黒区立中目黒小学校では以下のように生み出した時間を活用している。

	月	火	水	木	金
朝					
1					
2					
3					
4					
5					
6	チーム				MT
7	OJT				

MT（マイタイム）

- 自学自習タイム（低学年 20分 高学年 1 単位時間）
一斉指導で教わった内容の定着度を個別に確認し、基礎学力の着実な定着を図る補充学習や発展的な学習に取り組む時間
- フリースタイルプロジェクト（第3 学年以上）
一人一人の興味・関心に応じて自由に学習内容を設定して探究する時間

【テーマ別取組例】

学習系	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs を調べる ・四字熟語を調べる ・雨のできた方を調べる ・バッタの育ち方を調べる
もの作り系	<ul style="list-style-type: none"> ・本を作る ・アクセサリーを作る ・折り紙で飛行機を作って飛ぶ距離を測る
生活実践系	<ul style="list-style-type: none"> ・スイーツ本を作る ・料理が上手な人の特徴を調べる ・ミシンでポーチを作る
体育・運動系	<ul style="list-style-type: none"> ・速く走るコツを追究する ・ダンスを覚える ・ボールを遠くに投げる方法を追究する
芸術系	<ul style="list-style-type: none"> ・歌をつくる ・世界のド・レ・ミ・ファ・ソを調べる ・琴の演奏をする

チーム OJT

- 3～4 名程度の少人数グループを編成する。
- チームにはリーダーとして 1 名以上、主任教諭以上の教員を配置する。
- 経験年数や学年に偏りのない編成とし、低学年・中学年・高学年・専科の教員がバランスよく含まれるように OJT 担当教員が編成する。

(2) 研究の経過

		実施内容等
第一 年次		○ワーキンググループ編成（教務部会、生活指導部会、授業改善部会） ※授業改善部会については、国語科・社会科部会、算数科・理科部会、外国語科・ 道徳科部会、実技教科等部会を設置
	教育課程	生み出した時間の活用について協議する。「学校グランドデザイン」の 共通様式を開発し、学校独自の教育課程を編成する。
	授業改善	各教科の「単元デザインのポイント」「40分授業デザイン」を協議し、 試案を作成する。
名目 指定	教育課程	各学校の「令和2年度 学校グランドデザイン」に基づき、研究開発学 校教育課程編成上の留意点を明確にする。
	授業改善	第3・6学年、9教科の「単元デザインのポイント」「40分授業デザ イン」「目黒区研究開発学校版 年間指導計画」を作成する。
	研究開発学校 合同研修会等	○研究開発学校合同研修会等の実施（研究開発学校の日の設定【5月・9月・11月の3回】） ○令和2年度研究発表会（中間報告会）の開催（12月・1月）
第二 年次		○ワーキンググループ編成（教育課程部会、調査分析部会、授業改善部会） ※授業改善部会については、国語科、社会科、算数科、理科、音楽科、図画工作科、 体育科、外国語科、道徳科を設置
	教育課程	各学校の実践を基に、生み出した時間を学校裁量の時間、個別指導等の 時間、教員研修等の時間に分類し、活用のねらいを明確にした効果検証 を行う。
	授業改善	全学年、9教科の「単元デザインのポイント」「40分授業デザイン」 「目黒区研究開発学校版 年間指導計画」を作成する。
	研究開発学校 合同研修会等	○研究開発学校合同研修会等の実施（9教科研究授業）（研究開発学校の日の設定【5月・9月・11月の3回】） ○研究開発学校教務主任会【年4回】・生活指導主任会【年5回】の開 催 ○文部科学省初等中等教育局教育課程課 石田 有記 教育課程企画室長 による指導・助言
第三 年次		○ワーキンググループ編成（教育課程部会、調査分析部会、授業改善部会） ※授業改善部会については、国語科、社会科、算数科、理科、音楽科、図画工作科、 体育科、外国語科、道徳科を設置
	教育課程	生み出した時間の活用について、どのような活動に何時間活用している か整理し、効果検証を行う。
	授業改善	第二年次までに作成した単元デザインのポイント及び40分授業デザ インのポイント（9教科6学年分）を改めて整理し、「40分授業のポ イント」、「実践記録」を作成
	研究開発学校 合同研修会等	○研究開発学校合同研修会等の実施（9教科研究授業）（研究開発学校の日【7月・9月・11月の3回】） ○研究開発学校教務主任会【年4回】・生活指導主任会【年5回】の開 催 ○文部科学省初等中等教育局教育課程課 石田 有記 教育課程企画室長 による指導・助言
第四 年次	教育課程	生み出した時間の活用と取組の成果・課題を児童と教員に分けて整理 し、次年度以降の方向性を定める。
	授業改善	第三年次に作成した「40分授業のポイント」、「実践記録」を基に、 「見直す」「学習活動の時間の確保のための工夫」の2つの視点で整理 し、共通理解を図る。
	研究開発学校 合同研修会等	○研究開発学校研究発表会の開催（10/13、11/1 学校主催、11/2 区教委主催）

(3) 評価に関する取組

	評価方法	評価内容	対象	時期	
第一 年次 ～ 第四 年次 共通	運営指導委員会の開催		区教育委員会	通年	
	教育課程 生活指導	学校評価アンケート	魅力と活力ある教育活動の推進状況の把握	児童・教員・保護者・地域	10月
		研究開発学校実態調査（意識調査）	生活習慣、学習習慣、放課後の過ごし方等に関する実態把握	児童（第4～6学年） ・教員	10月
	学力等	区学力調査	児童の学習状況、生活状況の把握	児童（第2～6学年）	4月
		全国学力・学習状況調査		児童（第6学年）	4月
		児童・生徒の学力向上を図るための調査		児童（第4～6学年）	5～6月
	授業改善	研究開発学校実態調査（意識調査）	授業づくりの視点に関する自己評価	教員	10月 2月
		区学力調査	授業力の実態把握	教員	6～8月
	働き方	出退勤時刻調査	働き方改革推進状況の把握	教員	通年
	第一 年次	・生活習慣、学習習慣、放課後の過ごし方等に関する実態把握のための研究開発学校実態調査（意識調査）【対象：児童（第4～6学年）・教員】を開発			4～9月
・授業づくりの視点に関する自己評価のための研究開発学校実態調査（意識調査）【対象：教員】を開発					
・学校グランドデザイン共通様式の開発		通年			
第二 年次	・文部科学省国立教育政策研究所 初等中等教育研究部統括研究官 山森 光陽 統括研究官による指導・助言（評価方法やエビデンスの的確性、妥当性について）			1月	
	・教育課程部会によるヒアリング調査（名目指定年度の研究開発学校実態調査で肯定的評価が上がった学校を中心）			通年	
第三 年次	・教育課程部会によるヒアリング調査（生み出した時間の活用について、各学校の特徴を類型化）			通年	
第四 年次	・中学校の接続について、区立A中学校第1学年の生徒を対象に調査を実施（対象：区立A中学校第1学年生徒115名（40分授業実施校出身・45分授業実施校出身））			7月	

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

ア 児童への効果

(ア) 学習面

実施した指導方法等の特徴については、令和5年度研究開発自己評価書 pp. 6-7 に記載しているとおりである。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のため、ICTを以下の視点で効果的に活用した。

個別最適な学び	児童の活動を教師が把握する ○机間指導だけでなく、より効率よく児童一人一人に指導・支援を行う。	児童が自分に合った学習を進める ○デジタルドリルを活用する。 ○思考ツール等を活用しながら、考えを整理したり、友達への資料を作成したりする。
協働的な学び	互いの活動を参照する ○児童の成果物についてリアルタイムで共有を図る。 ○協働学習支援ツール等でリアルタイムで互いの考えの共有を図る。	協働で編集する ○グループの意見をリアルタイムで集約する。 ○協働学習支援ツールの機能を活用し、協働的な展開の充実を図る。

α 学力の保障

1 単位時間を 40 分（40 分×1015 コマ）としても学力を保障できているのかについては、学習状況等の複数の教育データを基に検証する必要があるが、本報告書では、数値で把握できる学力について示す。

状況を把握するための指標と調査結果（全国学力・学習状況調査 教科に関する調査）は以下のとおりである。

【指標】全国学力・学習状況調査結果（学力各教科正答率（%））が全国平均値と同等程度を維持

学力各教科正答率（%）								
	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度		令和元年度	
	国語科	算数科	国語科	算数科	国語科	算数科	国語科	算数科
研究開発学校（15校）	74.3	72.5	73.7	72	73.2	77	71.2	72.8
全国平均	67.2	62.5	69	67	64.7	63.8	63.8	66.6
都平均	69	67	65.6	63.2	68	65	65	70

全国学力・学習状況調査の正答率を全国や東京都と比較すると、国語科、算数科において全国平均、東京都平均よりも高い平均正答率になっている。

また、40 分が 1 単位時間になる前の研究開発学校の学習状況を示している令和元年度調査結果は表の通りであり、全国と研究開発学校との差は、令和 5 年度と大きく変わっていない。

β 学びへの意識

自分の学習状況について振り返り、次の学習につなげるなど、自己調整を問う質問に対して、研究開発学校の「あてはまる」と回答した児童の割合は全国よりも高い状態を維持している。

【指標】全国学力・学習状況調査結果の肯定的評価が全国平均値と同等程度

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 （「あてはまる」と回答した割合（%））				
	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和元年度
研究開発学校（15校）	50	55.5	50.7	
全国平均	31	33.2	32.6	
都平均	31.8	34.1	32	

5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 （「あてはまる」と回答した割合（%））				
	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和元年度
研究開発学校（15校）	52.9	54.1	50.2	46.8
全国平均	30.5	30.5	30.3	33
都平均	32.9	32.1	30.3	31.5

家で自分で計画を立てて勉強していますか。 （「あてはまる」と回答した割合（%））				
	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和元年度
研究開発学校（15校）	54.4	56.3	57	52.4
全国平均	28.7	27.5	31.2	33.1
都平均	33.3	31.9	35.1	34.6

中学校の接続

令和 5 年度研究開発自己評価書 p p. 3-4 を参照

(イ) 生活の質の向上について

生活の質の向上とは「学校の教育活動全体を通じて、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等をはぐくみ、子供たちのウェルビーイングの向上を図ることである」と捉えている。

ウェルビーイングに係る観点から児童の意識調査結果を分析した。

【指標】 全国学力・学習状況調査結果の肯定的評価が全国平均値と同等程度

自分には、よいところがあると思いますか。 (「あてはまる」と回答した割合 (%))				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和元年度
研究開発学校(15校)	55.5	48.4	40.3	44.5
全国平均	42.6	39.4	39.4	38.8
都平均	46.2	43	43	39.9

自分がやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。 (「あてはまる」と回答した割合 (%))				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和元年度
研究開発学校(15校)		55.7	51.8	
全国平均		38.8	35.9	
都平均		38.7	34.8	

学校に行くのは楽しいと思いますか。 (「あてはまる」と回答した割合 (%))				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和元年度
研究開発学校(15校)	56.2	57.0	51.5	55.9
全国平均	50.4	51.7	47.9	53.9
都平均	49.8	52.2	48.1	52.6

上記の調査項目について、「あてはまる」と回答した割合は全国平均値より上回っている。特に、「自分には、よいところがある」「学校に行くのは楽しいと思う」について、40分が1単位時間になる前の研究開発学校の状況を表している令和元年度調査結果との比較において、全国と研究開発学校との差は、令和5年度研究開発学校の割合が向上したため、差はさらに開いている。

従って、1単位時間40分(40分×1015コマ)においても「40分授業午前5時間制」で学校独自の創意工夫ある教育課程の編成により、学校の充実度や満足度、友達とのかかわり、自己肯定感は維持・向上していると捉えている。

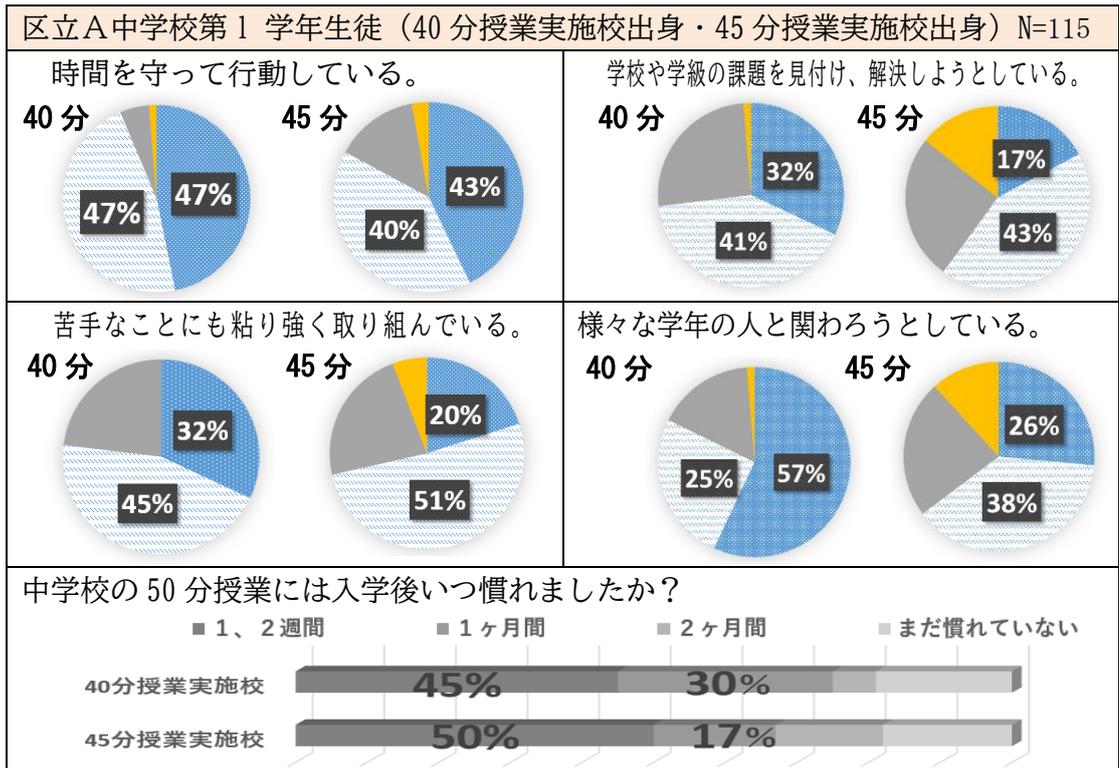
中学校の接続

生活面についても円滑な接続ができているのかについて調査した。

学習面と同様に、40分授業実施校出身の生徒の方が、肯定的な評価が高い傾向にあることが分かった。また、中学校生活への慣れについての回答においても45分実施校と同様の回答傾向があった。

40分授業午前5時間制実施校卒業生へのヒアリングでは、「中学校で50分になり、時間の長さを感じるがあったが、すぐ慣れた。」「小学校時代の40分という時間は、当時の自分にとって集中できる丁度よい長さだった」「時間を守ることで密度の濃い40分を過ごすことができた」という回答が得られた。また、中学校の教員へのヒアリングでは、「40分、45分実施校との接続の差は特に感じたことはない。」という回答が得られた。

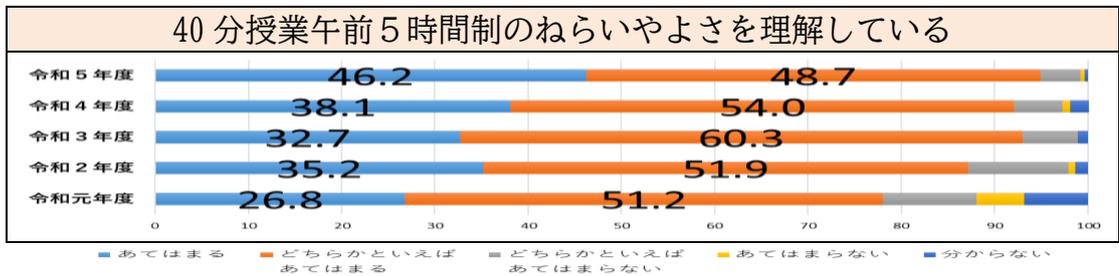
よくあてはまる あてはまる あまりあてはまらない あてはまらない



イ 教職員への効果

(ア) 創意工夫ある教育課程について

40分授業午前5時間制のねらいやよさを理解しているかについて、研究開発学校の教員対象調査（意識調査）²では、肯定的な回答が令和元年度（第1年次）から増加傾向にあることから、各学校では、教職員が「40分授業午前5時間制」のねらいやよさを理解した上で、学校独自の創意工夫ある教育課程の実現を図っている。

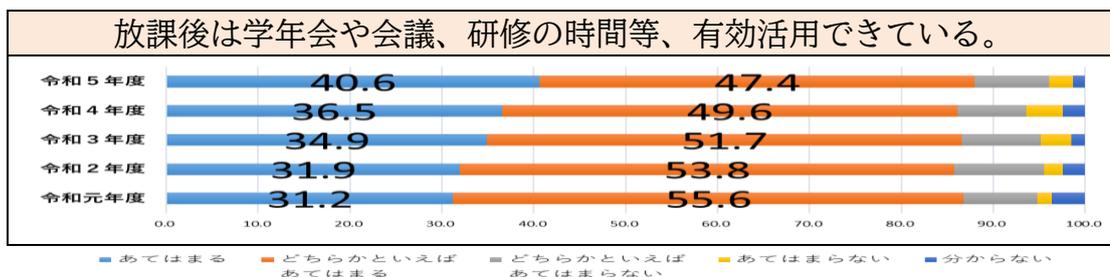


(イ) 放課後の時間の活用について

「40分授業午前5時間制」で生み出した時間は、「教員のための時間」として会議、研修、学年会の時間や、教材研究・校務分掌等に活用している。令和元年度から令和5年度に実施した研究開発学校の教員対象調査（意識調査）の推移は以下の通りである。



² 教員対象調査（意識調査）…研究開発学校の全教員を対象に、毎年10月に実施している意識調査



研究開発学校では、例えば、通知表作成期間や個人面談期間（5日間程度）は、午後の授業をカットするなどの工夫を行っており、教員は時間と心にゆとりが生まれ、児童にしっかり向き合うことができていると考える。

（ウ）働き方改革について

研究開発学校では、令和元年度から出退勤時刻を把握している。例えば、目黒区立B小学校における時間外在校等時間は以下のとおりである。

■目黒区立B小学校の場合■

【表1】月当たりの時間外在校等時間（平均時間）

令和3年度（4月～3月）	50:16
令和4年度（4月～3月）	44:04

- 6:12

【表1】から、令和4年度の月当たりの時間外在校等時間は、令和3年度と比較して約6時間短縮していることが分かる。

B小学校では右記のグラフの通り、91%の教員が「放課後は学年会や会議、研修の時間等、有効活用できている。」と肯定的な回答をしている。

「働き方改革」の具体として午後に会議を入れない日を設定し、教員がゆとりをもって生み出した時間を活用しているほか、授業時数をデータ管理するなどICTを活用しながら業務の効率化を図っている。

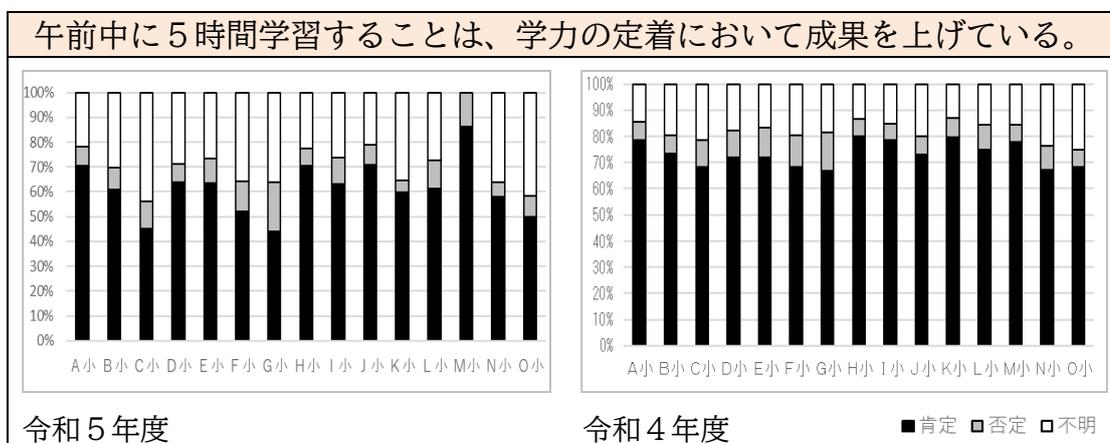
他校においても、月当たりの時間外在校等時間が短縮していることから、教員の働き方改革を一層推進することにつながっている。

放課後は学年会や会議、研修の時間等、有効活用できている。（R5教員意識調査 N=27）



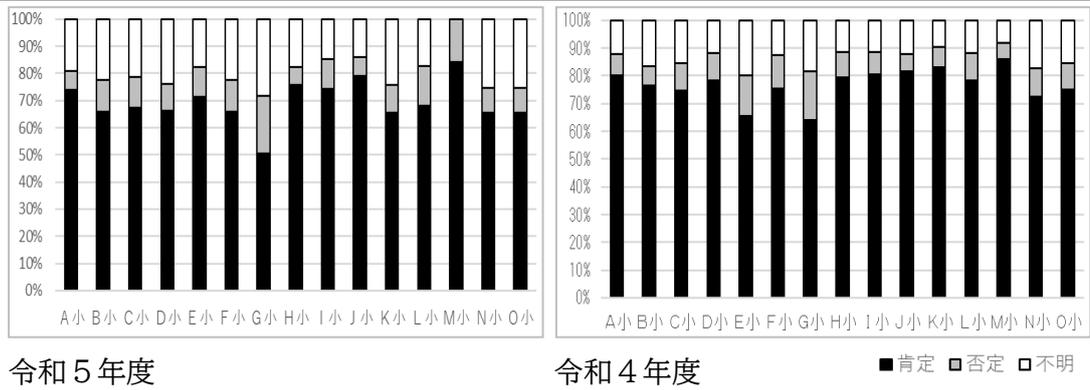
ウ 保護者への効果

「保護者による学校評価アンケート³」結果は以下のとおりである。



³ 学校評価アンケート … 毎年度、児童・生徒、保護者、地域、教職員の四者を対象に実施している。研究開発学校では、独自設問として、「午前中に5時間学習することは、学力の定着において成果を上げている。」「午前中に5時間学習することは、放課後等にゆとりが生まれるなど、学校生活の充実につながっている。」を設定している。

午前中に5時間学習することは、放課後等にゆとりが生まれるなど、学校生活の充実につながっている。



否定的な回答をしている保護者の割合は低いが、「不明（判断できない／分からない）」と回答している保護者の割合が高い学校がある。

保護者からは、「40分授業午前5時間制はメリハリのある生活となっているためとてもよい」「40分授業のよさは学年が上がるにつれて感じる事ができる」「朝食をとって登校したり、午前中授業をしっかりと受けられるように睡眠をしっかりと取ろうとしたりするサイクルもできている」「午前中に授業が多くある意義は理解しているが、子供からお腹が空くと言われることがあるので、朝食をしっかりと食べさせている」といった声がある。

これまで、本区教育委員会では保護者等が「40分授業午前5時間制」の意義や、学校独自の創意工夫ある教育活動の理解を深めることができるよう、広報誌（きょういく広報）等において、「40分授業午前5時間制」で生み出した時間の活用について周知するほか、各学校では、学校だよりや保護者会等で情報発信を行ってきた。そのため、保護者等には、一定の理解を得ているところであるが、さらに「40分授業午前5時間制」を推進していくためには、引き続き、各学校において全教職員で作り上げた「40分授業午前5時間制」の教育課程のよさ、特色ある教育活動について公開授業等を通して説明していく必要がある。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

ア 実施上の問題点

「(1) 実施による効果」に記載したとおり、学校教育法施行規則第51条別表第1によらず1単位時間を40分としても、創意工夫ある教育課程の編成及び指導内容の精選・重点化を図ることで学力は維持、向上できている。また、40分授業にしたことによる残りの5分間をまとめて時間を生み出し、その時間を活用して個に応じた指導や協働的な活動、教員のための時間等に活用することができている。

一方、児童が自己のカリキュラム・マネジメントを図る取組については効果があるものの学校間によって取組状況に差が生じていることや、小学校から中学校へと9年間の経年比較を通してその効果を明らかにすることができていないことが問題である。

イ 今後の課題

(ア) 「自己選択学習」の推進

区立小学校22校共通に、児童一人一人が興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択する時間として「自己選択学習の時間」を生み出した時間の127単位時間から年間35単位時間程度設定し、小学校低学年段階から継続的に取り組む。

「自己選択学習の時間」を確保して確実に実施することで、学校生活、家庭生活の

質が高まるとともに、自己調整力の向上が図られるものと捉えている。

「自己選択学習の時間」の具体的な取組として、児童・生徒一人一人が、学習のテーマ、学習方法、学習する場、まとめの方法等を自ら選択し、学習計画を立て、それに基づき学習を進めることが考えられる。

また、発展的な取組として、以下の取組が考えられる。

1 課題に対する見方・考え方を広げる

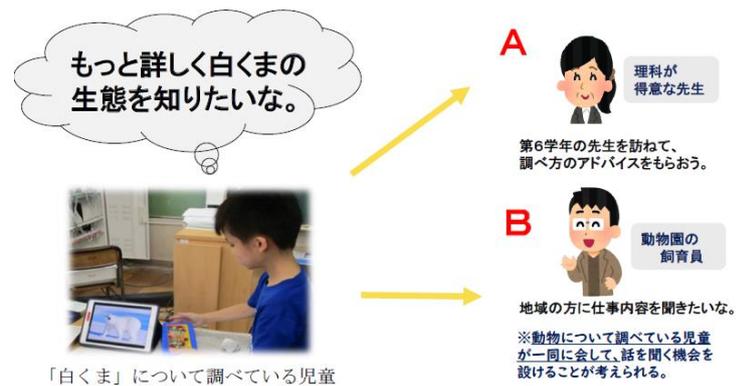
例えば、興味・関心のあることとして「折り紙」について追究している児童が、折り紙の技術について、簡単につぶせるペットボトルや立体建築物、医療分野等の様々な場面に応用されていることを知り、他にどのような活用ができるかを考えるといったように、社会的な視点をもって取り組むことで、一段、質の高い自己選択学習の実現が図られる。

1 課題に対する見方・考え方を広げる



2 学び方の選択の幅を広げる

例えば、自分に取り組んでいる課題について、スライドAのように、他学年の教員を自ら訪ねて話を聞いたり、Bのように、その分野に詳しい地域人材を活用したりすることは、課題を深く追究することにつながる。



なお、「自己選択」は児童一人一人が自己の生活や学びをマネジメントする中で成り立つことを前提とする。

(イ) 区立中学校との接続

一部の区立中学校においても研究開発学校の指定を受け、学校教育法施行規則第73条の規定によらず1単位時間を45分として教育課程を編成する。それにより生み出した時間は、区立小学校17校におけるこれまでの実践を参考にするとともに、小学校と同様に「自己選択学習の時間」を35単位時間程度設定し、生徒一人一人の興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択できる仕組みを構築する。

このように、子供たちが小学校の「40分授業午前5時間制」で学んだことを生かしながら中学校においても継続的に取り組むことで、さらに自己調整力の向上及び自分の生活や興味・関心等に応じた学びの充実を図ることができると考える。

(ウ) 他地区での実践

令和6年度以降は、本区立小学校全校実施に留まらず、他地区の小学校においても「40分授業午前5時間制」を実施し、本区の研究開発学校と連携して研究することで、全国の公立小学校における導入の可能性を示唆する。

目黒区立中目黒小学校（外16校） 教育課程表（令和5年度）

	各教科の授業時数										特 で別 ある教 道科 徳	外 国 語 活 動	総 学 合 習 的 な 時 間	特 別 活 動	新 設 教 科	総 授 業 時 数
	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭 育 成	体 育	外 国 語						
第1学年	306	/	136	/	102	68	68	/	102	/	34	15	/	34	/	865
第2学年	315	/	175	/	105	70	70	/	105	/	35	15	/	35	/	925
第3学年	245	70	175	90	/	60	60	/	105	/	35	35	70	35	/	980
第4学年	245	90	175	105	/	60	60	/	105	/	35	35	70	35	/	1015
第5学年	175	100	175	105	/	50	50	60	90	70	35	/	70	35	/	1015
第6学年	175	105	175	105	/	50	50	55	90	70	35	/	70	35	/	1015
計	1461	365	1011	405	207	358	358	115	597	140	209	100	280	209	/	5815

※ 1 単位時間 40 分とする。

※ 1 単位時間 45 分と 1 単位時間 40 分の総授業時間数の差（総授業時数×分）

	1 単位時間 40 分	1 単位時間 45 分	生み出した時間
第1学年	34600 分	38925 分	4325 分
第2学年	37000 分	41625 分	4625 分
第3学年	39200 分	44100 分	4900 分
第4学年	40600 分	45675 分	5075 分
第5学年	40600 分	45675 分	5075 分
第6学年	40600 分	45675 分	5075 分

学校等の概要①

1 学校名、校長名

目黒区立菅刈小学校、鈴木 稔

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区青葉台3-3-26

電話番号 : 03-3461-2569

FAX番号 : 03-3461-0623

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		通常学級計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
60	2	59	2	51	2	54	2	43	2	47	2	314	12

特別支援学級 (知的)		総計	
児童数	学級数	児童数	学級数
28	4	342	16

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		1	0	19		1		0	6
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	33						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

令和4・5年度 目黒区人権教育推進校

学校等の概要②

1 学校名、校長名

目黒区立下目黒小学校、秋山 美栄子

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区目黒2-7-9

電話番号 : 03-3491-0332

FAX番号 : 03-5496-4859

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
101	3	75	3	89	3	84	2	64	2	68	2	481	15

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	18		1		0	4
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	3	1	0	32						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

平成28・29年度 目黒区教育開発指定校(外国語科)

令和3年度 目黒区立小学校教科担任制推進校

学校等の概要③

1 学校名、校長名

目黒区立中目黒小学校、横溝 宇人

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区中目黒3-13-32

電話番号 : 03-3711-7628

FAX番号 : 03-3711-7626

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
89	3	91	3	124	4	72	2	81	3	111	3	568	18

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1	/	1	0	27	/	1	/	0	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	3	1	0	38						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成16年度文部科学省国語力向上モデル地域国語教育推進校

平成29・30年度文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

平成26年度東京都人権尊重教育推進校研究発表

(3) その他

平成30・令和元年度目黒区教育開発指定校（主体的に取り組む児童の育成）

令和5・6年度 目黒区人権教育推進校

令和4・5年度 目黒区教育委員会教育開発指定校

学校等の概要④

1 学校名、校長名

目黒区立油面小学校、岩前 真

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区中町1-5-4

電話番号 : 03-3719-1694

FAX番号 : 03-3719-6645

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
75	3	88	3	84	3	86	3	76	2	87	3	496	17

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		1	0	22		1		0	4
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	34						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

平成29年度 目黒区教育開発指定校 (国語科)

学校等の概要⑤

1 学校名、校長名

目黒区立烏森小学校、丸山 智子

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区上目黒3-37-27

電話番号 : 03-3719-1794

FAX番号 : 03-3719-2857

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
61	2	74	3	65	2	63	2	70	2	64	2	397	13

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		3	0	13		1		1	4
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	28						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成29・30年度文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

令和4・5年度 目黒区教育委員会教育開発指定校

学校等の概要⑥

1 学校名、校長名

目黒区立向原小学校、畔柳 信之

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区目黒本町6-7-15

電話番号 : 03-3714-1795

FAX番号 : 03-3714-6204

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
45	2	51	2	48	2	52	2	48	2	45	2	289	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	14		1		0	1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	24						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成29・30年度文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

平成30・令和元年度 東京都プログラミング教育推進校

(3) その他

特になし

学校等の概要⑦

1 学校名、校長名

目黒区立五本木小学校、若林 研司

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区五本木2-24-3

電話番号 : 03-3711-8494

FAX番号 : 03-3711-8420

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		通常学級計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
54	2	55	2	67	2	57	2	66	2	64	2	363	12

特別支援学級 (自閉症・情緒)		総計	
児童数	学級数	児童数	学級数
7	1	370	13

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	13		1		1	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	25						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

令和元・2年度 東京都教育委員会 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校

(3) その他

令和5・6年度 目黒区人権教育推進校

学校等の概要⑧

1 学校名、校長名

目黒区立鷹番小学校、板木 孝悦

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区中央町1-20-26

電話番号 : 03-3714-2594

FAX番号 : 03-3714-3796

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		通常学級計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
79	3	63	2	78	3	73	3	52	2	68	2	413	15

特別支援学級 (知的)		総計	
児童数	学級数	児童数	学級数
13	2	426	17

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		1	1	20		1		0	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	3	1	0	32						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

平成22・23年度 東京都 人権尊重教育推進校

平成24・25年度 東京都 スポーツ教育推進校

(3) その他

令和2・3年度 目黒区人権教育推進校

学校等の概要⑨

1 学校名、校長名

目黒区立田道小学校、藤井 良江

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区目黒 1-15-28

電話番号 : 03-3711-8594

FAX番号 : 03-3711-8590

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
76	3	67	2	82	3	53	2	77	2	60	2	415	14

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		3		15		1		0	1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	26						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成30年度 文部科学省「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」研修協力校

令和元年度 文部科学省「生徒発信力強化のための英語指導力向上事業」
「英語教育改善プラン推進事業」研修協力校

(2) 東京都関係

平成28・29年度 東京都教育委員会英語教育推進地域事業指定(英語)

(3) その他

平成30年度 実践研究協力校(外国語科・外国語活動)

[国立教育政策研究所]

学校等の概要⑩

1 学校名、校長名

目黒区立月光原小学校、衣非 まさ子

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区目黒本町4-15-3

電話番号 : 03-3714-2694

FAX番号 : 03-3714-3260

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
64	2	57	2	67	2	56	2	64	2	51	2	359	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	13		1		0	1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	23						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成29・30年度 文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

平成8～10年度 東京都人権尊重教育推進校（生活科・社会科）

(3) その他

特になし

学校等の概要⑪

1 学校名、校長名

目黒区立駒場小学校、北島 陽彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区駒場3-11-13

電話番号 : 03-3467-4461

FAX番号 : 03-3465-5987

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
40	2	63	2	80	3	59	2	66	2	53	2	361	13

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		1	0	15		1		0	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	25						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成6～8年度 研究開発学校

平成29・30年度 文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

平成26・27年度 オリンピック・パラリンピック教育推進校・研究開発校

(3) その他

平成31・令和2年度 目黒区人権教育推進校

令和3年度 目黒区立小学校教科担任制推進校

学校等の概要⑫

1 学校名、校長名

目黒区立緑ヶ丘小学校、龍花 千鶴

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区緑が丘2-13-1

電話番号 : 03-3718-5406

FAX番号 : 03-3718-5389

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
34	1	34	1	43	2	32	1	34	1	41	2	218	8

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	10		1		0	1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	20						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

平成30・令和元年度 目黒区教育開発指定校(体育科)

令和3・4年度 目黒区人権教育推進校

学校等の概要⑬

1 学校名、校長名

目黒区立原町小学校、加藤 明恵

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区原町2-18-12

電話番号 : 03-3714-2794

FAX番号 : 03-3714-3995

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
51	2	52	2	70	2	49	2	45	2	44	2	311	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		1	0	18		1		0	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	28						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成29・30年度 文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

平成13・14年度 東京都 人権尊重教育推進校

平成17年度 東京都 情報モラル教育実践モデル校

(2) その他

平成23年度 学習指導実践研究協力校 [国立教育政策研究所]

学校等の概要⑭

1 学校名、校長名

目黒区立不動小学校、小泉 修治

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区下目黒 6-11-35

電話番号 : 03-3714-3594

FAX番号 : 03-3714-4654

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
112	4	140	4	127	4	122	4	109	3	96	3	706	22

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	26		1		0	3
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	3	1	0	39						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

令和元・2年度 目黒区人権教育推進校

学校等の概要⑮

1 学校名、校長名

目黒区立上目黒小学校、瀬沼 美雪

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区五本木1-12-13

電話番号 : 03-3719-2594

FAX番号 : 03-3719-2747

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
45	2	49	2	45	2	53	2	44	2	51	2	287	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	15		1		0	1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	25						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

平成30・令和元年度 目黒区教育開発指定校(算数科)

学校等の概要⑯

1 学校名、校長名

目黒区立中根小学校、日下 勝豊

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区緑が丘1-1-1

電話番号 : 03-3718-4506

FAX番号 : 03-3718-5229

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
55	2	68	2	67	2	59	2	52	2	73	2	374	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	15		1		0	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	26						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成29・30年度 文部科学省研究委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」

(2) 東京都関係

特になし

(3) その他

令和3年度 目黒区立小学校教科担任制推進校

学校等の概要⑰

1 学校名、校長名

目黒区立宮前小学校、渡部 浩文

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 : 東京都目黒区八雲3-13-21

電話番号 : 03-3718-5506

FAX番号 : 03-3718-5091

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
43	2	53	2	56	2	49	2	53	2	51	2	305	12

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1	1		2	0	16		1		0	2
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	2	1	0	27						

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

特になし

(2) 東京都関係

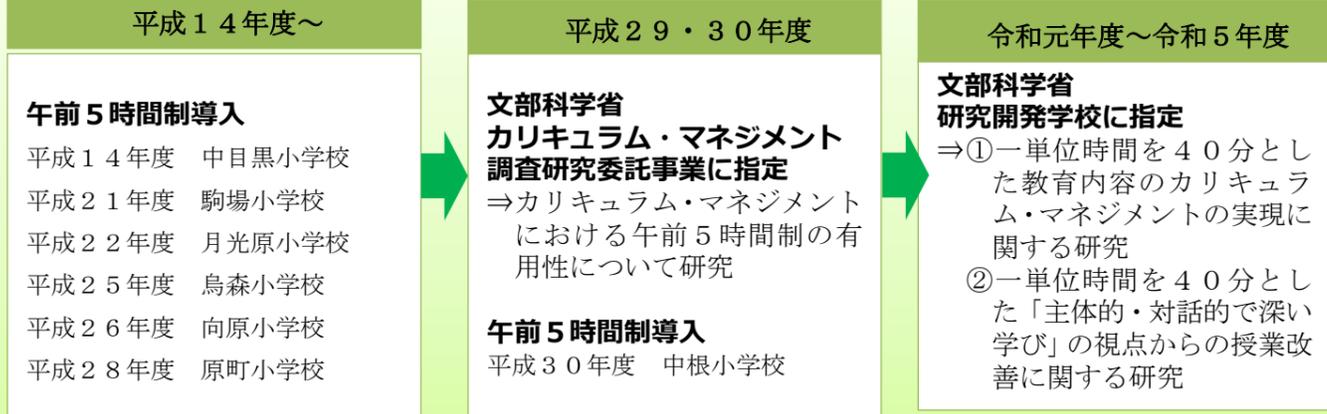
平成28・29年度 東京都 人権尊重教育推進研究校

(3) その他

特になし

研究開発グランドデザイン

研究開発の経緯



研究開発課題

児童の学びや生活の質の向上を図るため、学校教育法施行規則第51条の規定によらず、一単位時間を40分とし、**創意工夫ある教育課程、各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。**



研究開発の概要

● 40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発

児童の学びや生活の質の向上を図るため、40分授業午前5時間制によって授業時間数を生み出し、学校独自の創意工夫ある教育活動等に生かす。

各教科等の指導方法

- ・単元デザイン
- ・40分授業デザイン

適切な授業時数の在り方

- ・教育内容の精選、重点化
- ・教育課程編成上の留意点

※「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程と、それを支える各教科等の指導方法、適切な授業時数の在り方について研究開発を行う。

「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程 PDCA

